

令和 3 年度 県立下館第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	<p>【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校</p> <p>【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>令和 2 年度に、生徒一人一人の夢や希望をかなえられる学校を目指し、開校した。</p> <p>学習指導では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を心掛け、I C T 機器を積極的に授業で活用することができた。生徒の学習意欲、教師の I C T 機器の活用技術の向上が見られている。問いに対してじっくりと考え、情報等を整理・分析したり、論理的にまとめ表現したりすることに課題がある。また、中学校と高校、教科間の連携をより密にし、教育課程の特例を十分に生かしていく必要がある。</p> <p>ほとんどの生徒が、学習に対して前向きに努力し、基本的生活習慣をきちんと身に付け落ち着いて生活している。人間関係や学習のつまずきに対して悩む生徒がおり、個別の教育相談や家庭との連携、補習授業等で対応してきた。より正確な生徒理解に努めること、特別活動や授業の中で、協働や助け合い、合意形成や意思決定等の場を意図的に設定するなど、よりよい人間関係の構築のための取組を活性化させることに課題がある。</p> <p>部活動においては、約 8 割が加入し、積極的に取り組んでいる。しかし、開校したばかりで人数が少ない、活動場所の確保が困難といった問題があり、部活動の数や運営方法等について、今後、検討していく必要がある。</p> <p>開校 2 年目に伴い、全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生かすカリキュラムの策</p>	協働的・探究的な学びの充実	<ol style="list-style-type: none"> ①問題解決的な学習や協働的学習スタイルを授業に取り入れる。 ② I C T 環境の効果的な活用による学習の個別最適化を推進する。 ③中学校と高校、教科間の連携をより密にし、教育課程の特例を十分に生かした学習指導を行っていく。 ④探究プロジェクトや総合的な学習の時間での活動を通して、科学的に探究するための手法について習得させる。 ⑤積極的な模擬授業の実践及び相互授業参観を推進するなど、校内研修を充実させる。 ⑥少人数授業の充実を図る。 	A
	正しく判断し、行動する生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> ⑦複数担任制を生かして、より正確な生徒理解に努める。 ⑧受容的な雰囲気の中で行われる「考え、議論する」道徳科の授業を通して、道徳的価値の理解と実践力を育成する。 ⑨定期的な教育相談やアンケートの実施により、個に応じた指導を効果的に行う。 ⑩生徒会活動を活性化させる。 ⑪職員間の共通理解を図り、同一内容での指導を徹底する。 	B
	特別活動の充実	<ol style="list-style-type: none"> ⑫合意を形成し、実践する活動の充実を図る。 ⑬多様な意見を認め合い、折り合いを付け意見をまとめる話し合い活動を充実させる。 ⑭必要な組織をつくったり、自他のよさを生かした役割を分担したりする活動を工夫する。 ⑮キャリア・パスポートの作成、活用を更に推進し、積み重ね、 	B

別紙様式 2 (中)

定についても、高校と協働して進めていかなければならない。			振り返りを充実させる。 ⑯生徒会活動における自治的活動を推進する。		
		広報活動の推進と地域との連携	⑰ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「社会に開かれた学校づくり」に努める。 ⑱生徒の参画を企図し、小学校との連携や小学校訪問、学校説明会や学校公開の充実を図る。 ⑲総合的な学習の時間を活用して、市や地元企業との連携を推進する。 ⑳学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。 ㉑高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。	B	
		働き方改革の推進	㉒業務の見直しを進め、削減できる事業を各校務部及び学年で協議し、学校全体として1つ以上の事業を削減する。 ㉓在校時間を管理し、時間を意識した働き方についての改善・改革を推進する。 ㉔適切な役割分担と連携を目指して、責任と権限の明確化を図る。 ㉕ICT機器を効果的に活用した情報伝達・共有を推進していく。	A	
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。スコラ手帳の活用を通じ、家庭学習のPDCAサイクルを回し、課題に自主的に取り組ませる。①	B	B チュータリングを行い、基礎力の定着・得意分野の伸長等、生徒それぞれの資質・能力に応じた対応を目指す。 ディベート等、討論の機会を増やす。 引き続き創作活動に励ませ、各種大会への積極的な参加を促す。 ICT機器のさらなる活用をするとともに、情
			定期テストや学力推移調査の事後処理として、間違ったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせ、理解の定着を図る。①	A	
		読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワークやディベートを授業の中に積極的に取り入れる。また Chromebook を活用し、意見や理解の共有を深める。①②	B	
			年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。コンクールに投稿すべく、授業で俳句や短歌などの創作活動に取り組み、表現力の伸長を図る。①④	A	
	ICT スキルの定着を推進する。	タイピングにはじまり、分かったことをレポートにまとめ、スライドを作成してプレゼンテーションをおこなえるようになるまでの技術の習得を図る。①②④	B		

別紙様式 2 (中)

			参考資料を検索し、情報の取捨選択ができるよう、情報リテラシーについての理解を深める。 ②③	B		報リテラシーの涵養に努める。
	読書習慣の定着を促進する。		学級文庫・学年文庫など、読書環境を整える。図書室と連携し、授業で扱った教材に合わせた書籍紹介を行ったりするように努める。①	B		教科横断的に読書習慣を身につけさせるようにする。 司書教諭との連携。
			ビブリオバトルや各種コンクールなど、読書に関するイベントへの参加や応募を促す。①③④	A		
社会	協働的・探究的な学びの充実を図る。		生徒が予想を立て、見通しをもって行う問題解決的な学習課題の工夫を図る。①	A	B	
			ディベートなどにより、社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。①	B		
	社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図る。		ICT機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。①②	A		
			複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。①	A		
	中高6年間を見通した指導計画を作成する。		小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の作成と中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。③	B		
			授業担当者による相互授業見学及び研究協議等を実施する。⑤	B		
数学	基礎学力の向上を図る。		授業の開始と終了時刻を厳守する。③⑩	A	B	小テストや章末テストの実施状況が学年によって違いができてしまったので統一していきたい。また、コロナの感染対策の中、可能なグループワーク等を行ってきたが、来年度はさらに取り入れ、生徒の主体性を育ていきたい。教科の特性上ICTの活用は必要不可欠であり、来年度も継続していきたい。
			年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③④	B		
			毎時間の小テスト、章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へのフォローを行う。③④	C		
			学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。③④	C		
	家庭学習習慣の定着に努める。		課題に取り組みせ、家庭学習の習慣をつける。④	B		
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。③	B		
	自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。		学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。②③	C		
			学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にコンピュータを活用した授業を研究する。②	C		
理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。		時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③	A	B	継続して取り組みたい。
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。②③	A		来年で3学年がそろうため、全学年で実験が充実できる環境を完成させたい。
			資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。②③	B		

別紙様式 2 (中)

	自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。 ②③	B	コロナで、対面での話し合いを自粛していたため、状況が改善次第、話し合い活動を積極的に取り入れたい。	
		単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。 ②	A	考察力を養うためのよい発問をさらに追及したい。	
	進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。 ③④	B	問題集の活用をしつつ、今後は発展的な学習もより取り入れられるようにしたい。	
		理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 ②	A	高校との交流を視野に入れ、より専門性の高い授業を目指したい。	
	生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。 ②④	A	今後も、授業後や休み時間の質問に答える時間を確保できるようにしたい。	
		オンライン環境を活用し、個別指導の充実を目指す。 ③	A	G-mail の活用だけでなく、今後さらに Chromebook の活用法を深めたい。	
	保健 体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。 ②③	B	B 保健学習では、ICT 機器を活用しながら、こちらからの一方的な講義形式の授業にならないよう、課題解決型にしていく展開にしたい。生徒自身で主体的な学びができるような仕掛けをしたい。
			最新のデータや資料をもとに、学習カードや I C T 機器を活用してペアワークやグループ学習など、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。 ①②③	B	
		現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけるようにする。 ①②	A	
			保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。 ②③	A	
基礎体力の向上を図る。		年度を通じて、各学期に各学年とも体づくり運動の時間を設ける。 ②	B		
		ゲームの進め方を工夫し、生徒一人一人の運動量を確保する。運動が苦手な生徒でも積極的に取り組めるようなルールを設定する。 ①②⑧	B		

別紙様式2 (中)

						を図る必要がある。特に、全身持久力や、投力の項目である。
	種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい、生涯にわたって運動する習慣を定着させる。	各種目で経験者をグループ内に配置し、スモールティーチャーを設ける。 ②⑥⑪	B			学年によっては、能力差が激しく、全員が積極的に取り組めないシーンも見られた。練習方法などを工夫し、全員がスモールステップで取り組めるようにしたい。
		バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。 ⑥⑪⑱	A			
		スポーツを通してルールを守る習慣を定着させる。 ⑥⑬	B			
技術 家庭	学習意欲を高める授業を展開する	実験・実習・体験学習等を多く取り入れた授業を展開する。 ②③	B	B		今年度は休校期間等があり年間指導計画通り実習が行えないことがあった。来年度は計画通り進むよう余裕を持った計画を立てたい。
		異文化についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ①⑬	C			
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開し、主体的態度を育成する	三観点を意識したワークシートを作成し、思考力・判断力・表現力を把握する。 ②③	C			
		実験・実習の充実を図る。 ⑥⑱	B			
環境整備に努める	学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ⑩	A				
英語	指導力の向上を図る。	授業を公開し、校内で研究協議を行う。 ①②⑤⑪	C	B		感染症対策として、ペア/グループ・ワークを制限するなど、当初目標とした指導を十分にできないなか、試行錯誤し、工夫しながら授業を行った。さらに改善を図っていきたい。
		他校視察、研修会等への参加を通して指導法の研修を行う。 ①②⑤	B			
	生徒が授業や家庭学習に主体的に取り組めるよう適切に支援する。	音声指導やフォニックスの活用を通し、基本的なコミュニケーション能力が定着するよう指導を工夫する。 ①②	A			
		スモール・トークなど、口頭発表の機会を多く設け、生徒が主体的に活動できる授業を実践する。 ①②	B			
		課題や自学ノートを随時点検し、家庭学習の状況や理解度を確認する。 ①②⑨	A			
	高校との連携を深める。	授業公開や研修の機会を設け、中高の教員間での情報共有に努める。 ①②③⑤⑨⑪	C			
6年間を見通した効果的な指導体制づくりを進めるため、教科会等で議論を深める。 ⑤⑪		B				
1 学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	挨拶の励行に努め、遅刻・早退などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	C	B		挨拶運動の回数を増やし、自主的な挨拶の励行に勤めていきたい。また、今年度はコロナの影響で行事等がかなり制限されたので、来年度は多くの体験を通しコミュニケーション能力の育成を目指した
		服装等の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑥⑨	A			
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。 ⑥⑩	B			
	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。 ①⑪⑫⑬	C			
		生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。 ①⑬	B			
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱	B			
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	B			

別紙様式2 (中)

		道徳教育や学級活動を通して、他者を尊重する態度を養う。⑥⑬	B		い。 生活実態調査や普段の観察から問題の早期発見につなげてこられたので来年度も同様に行いたい。
学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。		スコラ手帳を使って時間管理の徹底を図り、1日平均2時間以上、休日平均の学習時間を確保させる。③④⑧	B		
		早めに登校し、始業までの時間に学習や読書をするこゝで、朝学習の習慣化と自主化を実現させる。③⑧⑩	B		
	業務の見直しを行うこゝで仕事の改善改革を行う。	複数担任制を取り入れるこゝで業務の分担化を推進し、適切な役割分担と連携を行う。②④	A		
2 学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身に付ける。①②③⑥	B	B	授業の環境づくりを最優先に、上位層と下位層が相互に学び合える習慣作りとともに、ICTの活用等、個別支援の在り方を工夫・充実させるこゝが課題である。
		手帳を活用し自己管理を行うこゝを指導し、自学の習慣化を図る取組みを推進する。③④	B		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶の励行や清掃指導をきちんと行うこゝにより、学習環境を整えさせる。⑪	B	授業の学習環境づくりの基礎として、挨拶の励行や清掃指導を強化できた。	
		早めに登校し、始業までの時間を朝課外の学習や読書をするこゝで、朝から落ち着いて過ごせる環境を醸成する。⑪⑭	B	授業開始時に、朝ドリルや読書週間を取り入れるなど、基礎・基本の定着に配慮した指導が実践されるようになった。一方で登校時間に	

別紙様式 2 (中)

					ばらつきがあり、時間を確保できないことやその時間の有効的な活用ができないことが課題である。
	コミュニケーション能力の向上を図る。	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、コミュニケーションの向上を図れる ⑩⑫⑬⑭⑯	B		学校行事や部活動に積極的な参加を促し、役割を与えることや、報告連絡相談を徹底させることが課題である。
		ICT 環境の効果的な活用による個別最適化を推進し、国内語学研修等、様々な活動を通して科学的に探究するための手法について習得させ、コミュニケーション力の礎を築く。 ①②③④⑫⑬	B		情報端末の日常的な使用を前提にした情報モラル指導の工夫、充実を推進していく。ICT 機器の習熟とともに、紙媒体の効果的な活用も課題である。
	いじめや不登校生徒への早期対応を継続する。	道徳教育を推進しつつ、定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。⑦ ⑧⑨⑫⑬	B		カリキュラムマネジメントの観点から、系統性と連続性を重んじた道徳指導の推進が課題である。
		各教員の細かい観察を基に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に最適な支援を行う。 ⑦⑧⑨⑪⑫⑬	A		欠席が多い生徒が数名おり、対応策を検討している。カウンセラーと連携し、心のケアも含めた声掛けを大切に、生徒の悩みに向き合う支援をしていくことが継続的な課題である。

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する